

図書館ネットワークの歴史 (埼玉県を中心に)

- 17世紀 ガブリエル・ノーデによって図書館の蔵書構成論や相互協力論などが成立する
- 1909年 佐野友三郎によって、山口県での図書館協力が提唱される
- 1927年 官立医科大学附属図書館協議会で「文献の相互貸借」が議題となる
- 1960年代以降 欧米で図書館の協力組織網の形成から、コンピュータと通信手段の進歩によりネットワーク化が進む
- 1970年 富山県で「富山県図書館資料相互貸借規約」が定められる
- 1973年 埼玉県で『埼玉県公共図書館等の資料相互貸借に関する協定』が定められる
(埼玉県立図書館による市町村立図書館を通じた資料提供が独立した業務となる。)
- 1975年 東京都の江東ブロックで「江東ブロック図書館資料相互貸借事務取扱要綱」が定められる
- 1976年 埼玉県立浦和図書館でライトバンによる搬送車の定期巡回が始まる
(これにより提供資料数が前年の2倍に！)
- 1980年 東京都の清瀬市・田無市・東久留米市・保谷市の4市間で「相互貸借業務処理要綱」が定められる
埼玉県で『相互貸借要領』が定められる
- 1985年 『埼玉県立図書館合同蔵書目録』が完成

5
1991年

当時、利用者の求めている資料が地元の図書館にない場合、まず県立図書館に問い合わせをして確認してもらっていました。

その後、県立図書館にもない場合は、県立図書館から各館に照会するという手順で処理がされていました。

そこで最初の県立図書館への問い合わせをしなくても地元図書館で調べられるように、県立4館(浦和・川越・熊谷・久喜)が創立時から1987年までに収集した資料を、その本の書名・著者名・内容などから検索できるようまとめた冊子が『埼玉県立図書館合同蔵書目録』です。

これは、県内の公共図書館や、高校・大学図書館、他の都道府県立図書館などに配られ、相互貸借に大きな役割を發揮しました。

【第一期】

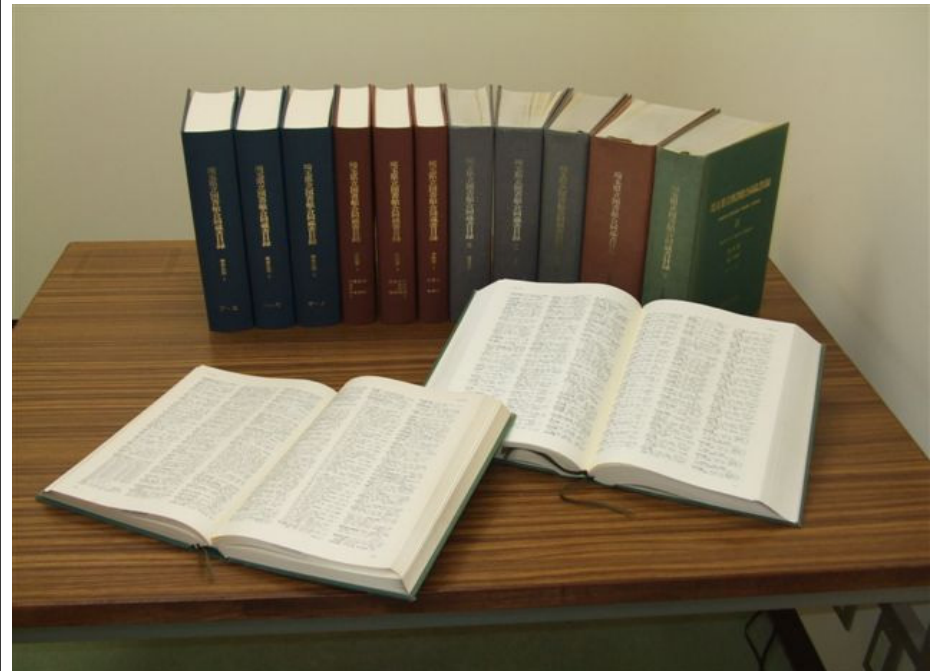
- ・収集時期 ～1981年3月末までの受入
- ・収録タイトル数 159, 563タイトル

- ・1985年3月 書名篇 4分冊刊行
- ・1986年3月 著者名篇 3分冊刊行
- ・1987年3月 分類篇 3分冊刊行

【第二期】

- ・収集時期 ～1987年3月末までの受入
- ・収録タイトル数 118, 460タイトル

- ・1990年1月 書名篇 2分冊刊行
- ・1991年2月 著者名篇 2分冊刊行
分類篇 1分冊刊行



↑ 埼玉県立図書館合同蔵書目録

1988年 埼玉県立浦和図書館管内で『SEARCH (サーチ)』が始まる

県立図書館にある資料については『埼玉県立図書館合同蔵書目録』が活躍したのですが、市町村立図書館の資料については、一館一館に照会する以外所蔵を確認する方法がありませんでした。

しかしながら、市町村立図書館の充実に伴い、右の表のように相互貸借数は増加の一途をたどり、新たな所蔵調査の方法が必要となりました。

こうして始まったのが「SEARCH」です。

これは、市町村立図書館が希望する資料のうち県立図書館で所蔵していないものをリスト化し、管内の図書館にFAXを送信して、一斉に所蔵確認をする方法です。県立浦和図書館管内を皮切りに行われ、長い間埼玉県の相互貸借システムを支えてきました。

市町村立図書館相互貸借処理数 (浦和エリア)

		1982年度	1987年度
処理冊数		33,180	66,829
処理内訳	自館処理	31,042	58,396
	県立から借用	1,495	7,084
	市町村立から借用	286	1,231
	国立国会図書館から借用	50	102
	その他	307	16

1992年

学術情報センターでILLシステムを利用した図書館間相互貸借の運用開始

「学術情報センター」は、現在の「国立情報学研究所」の前身で、「ILL」とは「Inter Library Loan」の略で「図書館間相互貸借」を意味します。
このシステムは、図書館間で行われている相互貸借サービス（文献複写や資料現物の貸借の依頼および受付）のメッセージのやりとりを電子化したシステムで、大学図書館を中心に2006年には1049館が参加しています。

1995年

『彩-BISC』（CD-ROM版合同蔵書目録）の運用開始

国内では、東京都・千葉県立西部図書館に次いで都道府県段階で3番目として制作・利用開始されたCD-ROM版の合同蔵書目録で、1988年から国立国会図書館が編集、日本図書館協会が製作・発行している「J-BISC」(Japan Bibliο-Disc (日本の書誌データが書かれているディスク))から「彩-BISC」と呼ばれるようになりました。
データのデジタル化に伴い、書名や著者名の一部からの検索を可能にし、そして何より資料検索を迅速化・簡易化させました。



↑ 彩-BISC

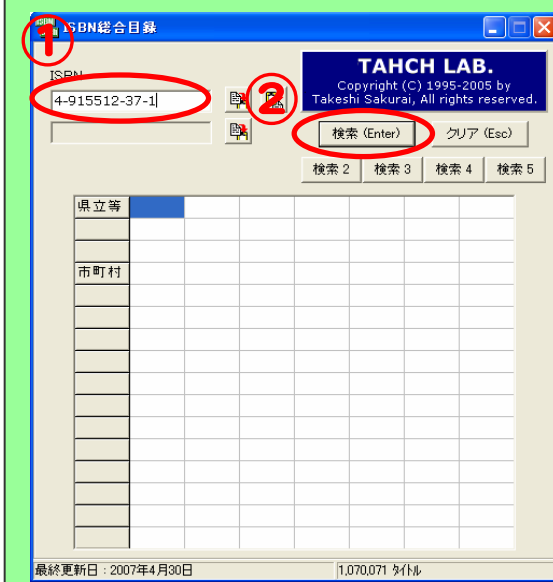
1999年

『埼玉版ISBN総合目録』の運用開始

ISBN（国際標準図書番号）という、個々の出版物を特定するために付けられた番号を使って県内図書館の所蔵する資料を検索するシステムで、探している資料のISBNを入力すれば、どの図書館が所蔵しているかが瞬時に判明するので、利用者の方々への資料提供が迅速になりました。

例：『ハリー・ポッターと賢者の石』（J. K. ローリング／作，松岡 佑子／訳，東京：静山社，1999.12）

この本のISBNは 4-915512-37-1 となっています。
下の図のような感じで簡単に所蔵館がわかります！



- ①：入力欄にISBNを入力
- ②：検索実行

- ③：所蔵館表示

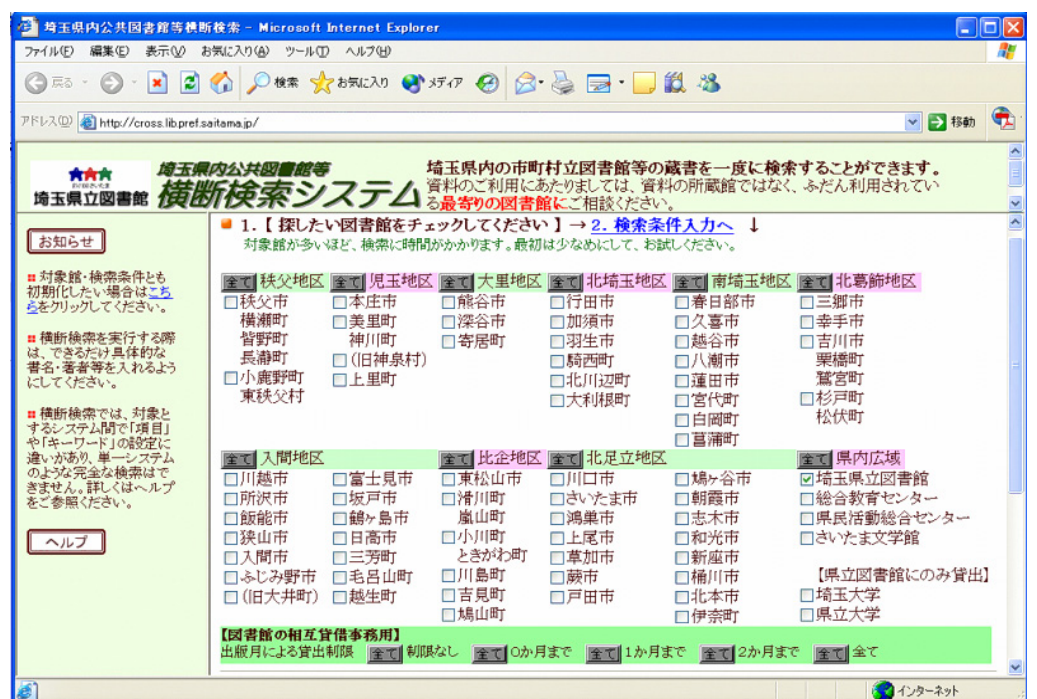


2006年

『埼玉県内公立図書館等横断検索システム』運用開始

県内でも1990年後半から、蔵書目録をインターネット上に公開する図書館が始めました。それを利用して、インターネットを通じ、県内の公立図書館や大学図書館などの蔵書を一度に検索できるようにしたシステムです。
これまでは、一館一館のホームページにアクセスし、それぞれの検索システムに条件を入力して検索しなければなりませんでしたが。
しかし、この横断検索システムによって、Web-OPACを持つ、県内の公立図書館等が所蔵する資料を一度に調べることができるようになりました。

埼玉県内公立図書館横断検索システムは <http://cross.lib.pref.saitama.jp/> にアクセスすると誰でも利用できます！ ↓



↑ 埼玉県内公共図書館等横断検索システムのトップページ
検索したい図書館にチェックを入れ、その下に検索項目を入力して検索すると、どこの図書館で所蔵しているかがわかります。

このように、インターネットの普及により本を探す手段は格段に発展を遂げてきました。また、平成19年4月からは物流ネットワークの拠点が県立熊谷図書館に一元化され、より迅速な資料提供が可能となりました。

そしてその間、平成17年4月からは埼玉大学図書館と、平成18年4月からは埼玉県立大学情報センターとの相互協力がスタートし、図書館は今、皆様のご要望にお応えするために、館種や自治体の域を超えて手を結び互いに協力し合っています。